

近代化の歴史と文化エリア



まちの魅力インデックス

- ① にぎわいを生む 和田町商店街

- ② 和田にある3つの社

- ③ 横浜国立大学と地域のつながり
 ～和田町で活動する学生たち～
 ～「みんな」の躍動感～

- ④ 常盤園への道「むかし」と「いま」

- ⑤ 保土ヶ谷近代化の功労者 岡野欣之助

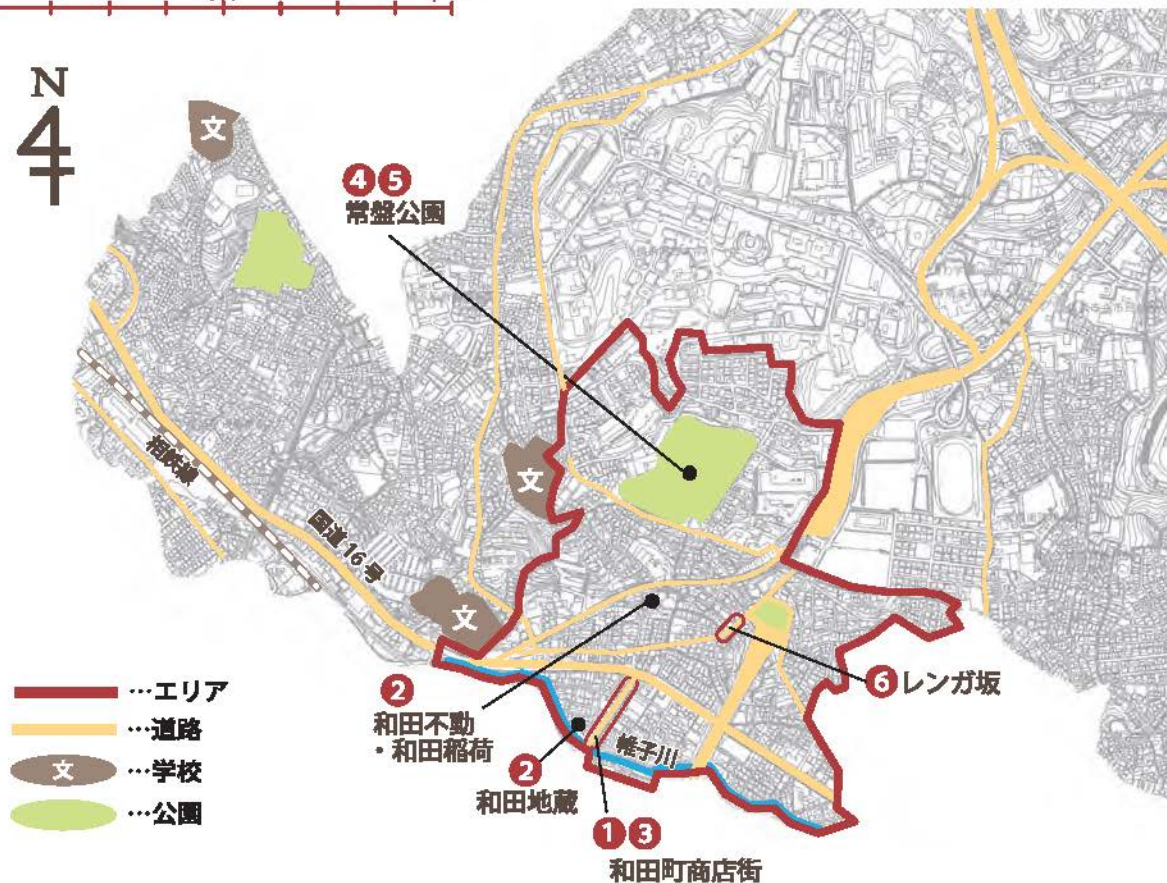
- ⑥ 「坂」にまつわるおはなし

メモ

近代化の歴史と文化エリア

0 250 500 750 1,000m

N
4



1 にぎわいを生む 和田町商店街

和 田町商店街は、和田町駅の北口に位置し、駅から国道16号沿いまで伸びています。

店舗数は、飲食店を中心に約100店舗加盟しています。昭和の情緒を感じられる商店街です。

普段の商店街



べっぴん
マーケット



地蔵まつり



定期的に開催する「べっぴんマーケット」、8月恒例の「地蔵まつり」では多くの方々が来られ、盛大なイベントとなっています。

また、商店街の若手が集まり、さらなる活性化を目的とした「チーム和田街」を立ち上げています。さまざまなイベントを企画・実施していて、これからが楽しい商店街です。
ぜひ、お越しください！

ほどがや語りべ集

近代化の歴史と文化エリア

1 にぎわいを生む 和田町商店街

ほどがや語りべ集

近代化の歴史と文化エリア

昭

和建设協は、昭和41年から和田町商店街の中で営業しており、平成22年4月から商店街の活性化を目的とした養蜂事業を行っています。

探蜜時集合写真



探蜜状況



養蜂事業キャラクター



国大スイーツ販売



養蜂を通して、自然のありがたさを理解してもらうために近隣の方とはちみつと一緒に探ったり、横浜国大生と一緒にはちみつ入りのスイーツを作ったりと、積極的に活動を続けています。

地域の中でも養蜂事業について聞かれることが多く、地元で定着してきています。このはちみつは商店街のイベントなどで販売されています。

2 和田にある3つの社

1 和田地藏

地元では地藏様と呼ばれていますが、実は「阿弥陀像の庚申塔(こうしんとう)」で、元禄2(1689)年に建立されました。和田町では、昭和初期まで庚申講が盛んであったようです。今では、地元の守り神として崇められ、毎年8月23日、24日のお祭りは、商店街をあげて盛大に行われています。



2 和田稲荷

治承4(1180)年、源頼朝の家臣和田義盛は戦勝祈願のため、当地に祀られていた十一面観世音菩薩の礼拝に訪れました。そのとき、「稲荷の霊社を信心すれば、志は必ず成就する」との観世音菩薩のお告げがあり、義盛は早速、この地に稲荷社を建立しました。のちに人々は、この稲荷



社を「和田稲荷」と呼ぶようになり、和田という地名の起こりになったと伝えられています。

ほどがや語りべ集

近代化の歴史と文化エリア



2 和田にある3つの社

③ 和田不動 (真福寺(しんぷくじ))

高野山真言宗に属し、関東三十六不動霊場の第4番礼所。開創は明らかではありませんが、和田義盛の建立と伝えられています。その後、しばらく廃寺となっていました。その後、元和元(1615)年、地元の豪族・田口平兵衛重勝により再建されました。現在の本堂は、昭和20年に戦災で焼失したあと、同35年に完成したものです。境内には横浜市の名木古木の指定を受けている樹齢300年以上のツバキと樹齢400年以上のイチヨウが見られます。



また、門前にある地藏尊は、和田町駅近くの山崎台にあった幻の寺、浅間宝寺跡に祀られていた「満願地藏尊」



です。明治元年、浅間宝寺跡が星川小学校の建設用地になったため、真福寺門前に移されました。この地藏の体をなでると願いごとがかなうといわれています。

横浜国立大学と地域のつながり ～和田町で活動する学生たち～

国道 16 号沿いのスーパーマーケット脇の細い道を入ると、スーパーマーケットのはす向かいに旧和田西部町内会館 witWADA があります。



寺子屋（毎週月曜日 16 時～18 時）



横浜国立大学の学生が、ボランティアで周辺に住む子どもたちの自主学習のサポートをしています。宿題を済ませた子どもたちは、大学生と遊んだり、会話をしたり。寺子屋は、活気あふれるにぎやかな空間となっています。

古本図書館（毎週土曜日 13 時～18 時）

自分の読まなくなった古本を持っていくと、古本図書館にある古本と交換できるというシステムの図書館です。

横 浜国立大学民謡研究会合唱団（みんけん）は、部員数60人前後で構成され、日本民謡の太鼓や踊りの演奏を行う団体である。曲に込められている思いを考えながら楽しく歌い、全団員で一つの曲を作る。さらには混声合唱にも取り組んでいる。その成果を披露するため、毎年、磯子公会堂や青葉公会堂などで数多くの発表会を行っている。

横 浜国立大学はひらかれた大学として地域と強い絆^{きずな}で結ばれている。大学構内を自由に歩き、学生と一緒に昼食をとることもできる。

「み んけん」の練習風景を見学すると、ハッピーを着た学生たちの躍動感あふれる演奏や踊りに、参加者は感動し見入っている。



4 常盤園への道 「むかし」と「いま」

常盤園の「むかし」と「いま」、敷地面積は1/6に。
同じポイントの写真を比べると、歴史の流れが見えてくる…

むかし



昭和6年

いま



平成16年

A地点

むかし



「フォトアルバム 思い出の保土ヶ谷」より

当時の「常盤園入口」と言われている。昔は、この道が真っすぐ上っており、桜並木になっていたという。

同じ場所を推定。今の横浜新道の峰岡出口のところ。昔の人力車はこの辺りまで来ていたのか？

いま



ほどがや語りべ集

近代化の歴史と文化エリア

4 常盤園への道 「むかし」と「いま」

B地点

むかし



「フォトアルバム 思い出の保土ヶ谷」より

坂の下の入口。

大木を2本残して、そのまま門柱にしている。

同じ場所を推定。昔と同じように、1本道が続いている。



いま

C地点

常盤園の周辺も…

むかし



「フォトアルバム 思い出の保土ヶ谷」より

園内のあずまや。
奥は今の川辺町。
手前の田んぼは、
今の和田町一丁目
辺り。

あずまやがあった辺りは
家が密集して、下の町は
見えにくい。



いま

岡野新田を開発した、岡野良哉氏の長男として生まれた岡野欣之助氏（1865～1929）。

明治―大正―昭和初期の保土ヶ谷の近代化にさまざまな面で貢献しました。

① 県農事試験場の開場

明治29年、岡野新田に開場された試験場は、同41年、塩害の影響により帷子峯（現峯小学校）に移転しました。（のちに隣接工場の煤（ばい）煙の影響を受け、大正10年に鎌倉郡玉縄村（現鎌倉市）へ再度移転）

安政年間（1854～60）、甲州（現山梨県）から持ち込まれ、栽培研究が行われたジャガイモは「保土ヶ谷いも」と名付けられ、質の良い種イモとして全国に知られていました。



保土ヶ谷時代の農事試験場全景（「保土ヶ谷区史」より）

② ブドウ酒の醸造への援助

明治45年頃、米国に留学しブドウ酒の製造を学んで帰国した中垣秀雄氏は、岡野欣之助のすすめもあって、帷子ブドウ園（現在の国大と常盤公園の間の南斜面一帯）と皇国ブドウ酒の醸造所（峯小学校付近）を開設しました。震災により被害を受けましたが、その後の洋風化にのって事業を拡大し、帷子ブドウ園は行楽の人やゴルフ場来訪者でにぎわいました。そのほか、中田ブドウ園や保土ヶ谷ブドウ園も開設され、保土ヶ谷の名物になったのです。

5 保土ヶ谷近代化の功労者 岡野欣之助

③ 学校建設などの用地提供

大正3年には、横浜家庭学園の移設のために、岡野公園隣接地の環境の良い土地約2千坪を用意しています。また、岡野新田にあった岡野邸の隣接地を、県立高等女学校（現県立横浜平沼高等学校）の設立のために寄付しています。文化教育にも尽力しました。

④ 常盤園の市民への開放

明治・大正の頃、現在の常盤公園付近は岡野氏の広大な別荘地で、常盤園と呼ばれていました。市の人口が急増するに伴い公園不足が指摘されるようになると、岡野氏が巨額の資金を投じて自己所有の山林を整備し、大正3年に開放しましたが、市民からは、常盤園の名称より「岡野公園」の愛称で親しまれました。

現在の常盤公園は、元の公園入口付近の一部（約6分の1）を昭和17年10月、市が買収し開設した公園です。今も緑豊かなこの公園は、運動広場やテニスコート、弓道場など、区民のスポーツと憩いの場となっています。



6 「坂」 にまつわるおはなし

①レンガ坂



和田町2丁目から常盤公園に上る坂道（富士見坂）の途中を横切っ

ている坂をレンガ坂といいます。地下に水道管が埋まっており、西谷の浄水場から鶴見区馬場の貯水池へ、昭和5年頃から導水しています。

昭和40年頃の写真には、太い水道管が表面に出ていますが、水は下から上に流れていました。どうしてでしょう？それは、西谷の方が馬場よりも標高が高いから。水圧で上がっていたのですね。



昭和 40 年頃



現在

「八十年わが町 保土ヶ谷」より

ほどがや語りべ集

近代化の歴史と文化エリア

6 「坂」 にまつわるおはなし

② 峰坂



峰坂の庚申塔

やりみず

鑑水峠へ向かいます。碑には、「この道は八王子に通じた唯一の交通路」とあります。これが「絹の道」とされていたのでは？

調

べてみると、横浜開港直後、数年間は「五品江戸廻送令」が出され、生糸をはじめ五品目は江戸の間屋を通さないと輸出できなかったのです。生糸商人は、できるだけ間屋を通さずに中山あたりから「のがれ道」を作り、保土ケ谷へ出て横浜に向かったと推察されます。

今

の国道16号の本来の「八王子道」は、道幅も狭く（1間3尺＝約270cm）、和田村と白根村に道橋という難所もあり、平易な浜街道の方が絹の道のメインルートだったのでしょう。



峰坂之碑